

BMC プログラム海外派遣報告書

蛋白質研究所 超分子構造解析学研究室
特任研究員 前田将司

参加シンポジウム：Life Science Student Activity Fair 2009

会場：国立清華大学（新竹市,台湾）

派遣期間：2009. 5/12~5/16

BMC 海外派遣プログラムに支援していただき、私は台湾・国立清華大学にて開催された「Life Science Student Activity Fair 2009」に参加し、ポスター発表と口頭発表を行いました。国立清華大学は台北の桃園空港から車で40分ほど南西に行った新竹市にあり、周囲に数々の研究施設・大学のある、いわば学園都市です。5月中旬とはいえ、現地での気温は30℃を超える日が続いた上に、町の通りを行き交う人の数も多くて「暑さ」と「熱さ」を両方感じました。滞在2日目と3日目とでポスター発表およびミニシンポジウムで口頭発表を行いました。比較的大きな講堂に100人程度の学生・教職員が集まって、阪大、清華大学それぞれの学生が順に自身の研究成果を発表していきました。ミニシンポジウムでは阪大・清華大学の学生が交互に座長を担当して司会進行を行い、また、それぞれの大学の発表を相手方の大学の学生がレフェリーとなって評価し、最終的に優秀プレゼンテーション賞を決めました。計算機科学・生化学・細胞生物学など多彩な分野の学生が発表を行い、非常に活発な質疑応答が交わされました。その後のポスター発表でも多くの意見交換・研究（結果）報告が交わされ、非常に有意義なシンポジウムとなりました。現地でのコミュニケーションはすべて英語で行いましたが、清華大学の学生の英語力の高さに驚かされました。大阪大学の学生も学術会話・日常会話ともによくコミュニケーションをとれていたように思いますが、日常会話でときどき表現・単語が出てこないような場面があったように感じました。とはいえ、海外での長期滞在や英語での会話の場数をもう少し積むことで十分克服できるレベルであると思うので、阪大の学生の英会話力もなかなかのものだったのではないかと思います。台湾の学生は非常に研究熱心で、ポスター発表の際には細かなところまで質問が及んでおり、答える側としても満足感のあるものでした。

最終日は清華大学の学生たちの案内で台北観光をしました。金鉱山やその周辺の観光街、夜市を見て回りましたが、至る所に日本とのつながりを感じさせるものがあり（建築・言葉・商品・雑誌など）、改めて日本と台湾とが親交の深い国であると思いました。清華大学の学生たちはとにかく「もてなし」「ホスピタリティ」の精神が強く、その誠実さは我々日本人も見習わなければならないと思いました。

わずか5日の滞在でしたが、台湾の熱気、台湾人のエネルギーを肌身に感じ、学生同士の親交が深まった、非常に中身の濃い5日間であったと思います。今回のプログラムを企画・計画・実行して下さったすべての方々に感謝しています。